

赤十字NEWS

August2011 Vol.855
http://www.jrc.or.jp



編集・発行 / 日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。



夏の海はキケンがいっぱい 水辺の事故をなくす講習会

「ペットボトルで浮かんだよ!」「服を着たままだでも沈まないんだ」—子どもたちの歓声が夏の波間に響きます。日本赤十字社は、水の事故を防ぐための水上安全法講習会を全国の支部で開催。いざというときに身を守る知識と技術の普及に努めています。神奈川県支部が横浜市「海の公園」で開催した『親子DEレスキュー』(7月16~18日)には104組208人の親子が参加。身近なものを浮き具にする体験などを通じて、楽しく安全な水遊びを学びました。

CONTENTS

| | | | | |
|---|--|---|---|--|
| <p>2 TOPICS</p> <p>広報大使・藤原紀香さん 被災地を3度目の訪問 楽しい水のレジャーは安全から 国際モダンホスピタルショー2011出展</p> | <p>3 TOPICS</p> <p>春夏秋冬 赤十字病院物語 第5回 伊達赤十字病院 証言 3・11東日本大震災 常任理事会開催報告</p> | <p>4 5 SPECIAL</p> <p>世界の赤十字社が 応援しています 被災者の生活再建へ 復興支援事業展開中</p> | <p>6 7 AREA NEWS</p> <p>秋田・千葉・静岡・長野 山形・埼玉 入学のご案内 Voice & プレゼント</p> | <p>8 WORLD</p> <p>ICRCシンポジウム 「北アフリカにおける人道危機とその対応」 チリ大地震復興支援 南スーダン赤十字社発足</p> |
|---|--|---|---|--|

クロスアップひと



AKB48
前田敦子さん

私たちの元気で日本を笑顔に

「みんなが頑張っている姿を見習って、日本中に笑顔があふれるように、私たちも頑張っていきます」

赤十字オフィシャルメッセンジャーとして、日本赤十字社の活動をより多くの方々に知ってもらうためのキャンペーンを展開中のAKB48。その一員として、こんなメッセージを発信しています。

元気あふれるステージで国民的アイドルグループに。そのパフォーマンスはメンバー間

の切磋琢磨のたまものといわれています。そんな中であって、今年5月の「総選挙」で1位復帰。幅広いファンの心をつかんでいます。

東日本大震災の影響でAKB48のライブやイベントも次々と中止に。「あの時、逆に全国から多くの励ましをいただき、『歌ってすごく大きな力があるんだ』と改めて感じました。だから、被災された皆さんに笑顔になってもらえるように、これからもたくさんの方所で歌って、踊っていきたくて、思います」

PROFILE

1991年7月生まれの20歳。2005年12月に東京・秋葉原の専用劇場でデビューしたAKB48のオープニングメンバーの一人で、今や誰もが認める中心的な存在。ファンは親しみを込めて「あっちゃん」と呼びます。数々のドラマに出演し、今年6月には映画初主演を果たしました。メンバーは大震災から3日後、義援金プロジェクトを立ち上げ、寄せられた募金を日赤に託しました。

赤十字広報特使・藤原紀香さん

義援金を1日も早く被災者へ

宮城・塩竈市役所で職員を激励

「街の復興のため『戻ってほしい』と、会いにきました」
赤十字広報特使の藤原紀香さんが7月22、23の両日、東日本大震災で被災した宮城県各地を訪問。塩竈市では義援金配分の業務に携わる市役所職員らを激励しました。紀香さんの被災地訪問は今回で3回目です。



©Ichigo Sugawara
塩竈市内でリラクゼーションに取り組む

塩竈市は市内の2割の地域、心のケアを入れていかなければなりません」と強調し、松島湾に浮かぶ桂島などは高さ15メートルの津波に襲われ大きな被害が出ました。寄せられた義援金は5月に二次配分が完了し、二次配分についても早急に届ける方針だといっています。

内形繁夫副市長は、被災した方が仮設住宅に入居して生活再建をスタートさせていると語る一方、「これからは被災した市民の生活再建に大

いに役立っています」
紀香さんは「被災したすべ

復興推進室などで職員の皆さんを激励。職員からは「ありがとうございます。これからは被災者のために頑張ります」との声が上がりました。

再出発後押しする家電セット

壊滅的な被害を受けた女川町では、高台の町立小学校校庭に建てられた仮設住宅を訪

岡裕彦・利恵さんご夫婦のお宅では5月に女児あさひちゃん



©Ichigo Sugawara
塩竈市の内形副市長に被災状況や復興について説明を受けました



©Ichigo Sugawara
女川町の仮設住宅で、生後2カ月のあさひちゃんに話しかける

熱中症対策を呼びかけ

紀香さんは石巻市や塩竈市で、日赤が行った暑さ対策の講習会にも参加。熱中症予防のためのクールタオル作り

国際モダンホスピタルショウ2011

日本病院会と日本経営協会が主催する「国際モダンホスピタルショウ2011」が7月13日から3日間、東京・有明の東京ビッグサ



の企画展示では、さらなる患者サービスの向上を目指すための効果的な取り組みを紹介しました。

楽しい水のレジャーは安全から

「慌てず浮いて救助を待とう」

神奈川県支部が「親子DEレスキュー」開催



神奈川県支部は7月16、18日の3日間、落水など日常で

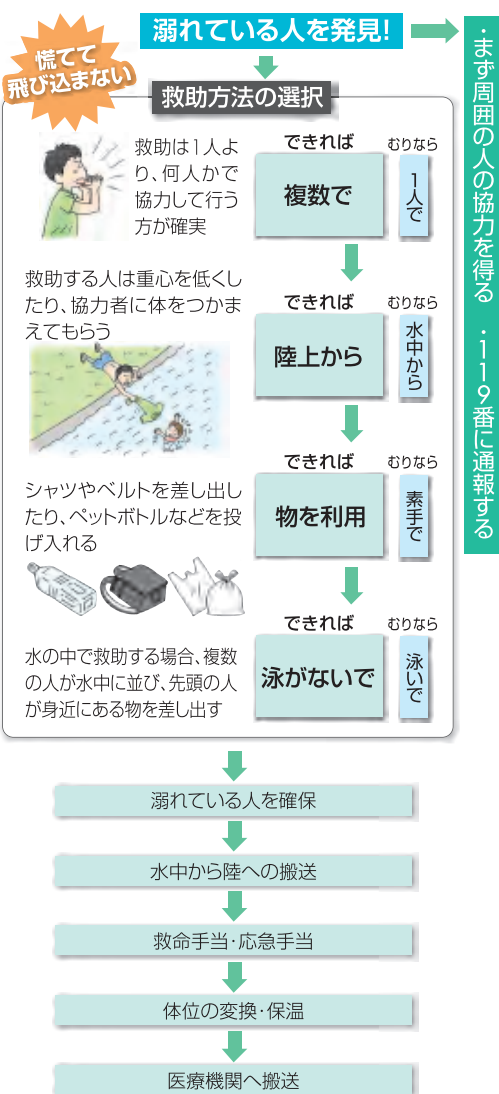
起りうる水の事故に備えた日帰り体験プログラム「親子DEレスキュー」を横浜市「海の公園」で開催。3日間で104組208人の親子が参加し、ペットボトルやランドセルなど身近なものを浮具にする方法や着衣状態での浮き方などを学びました。

いざという時飛び込まないで！
水の事故が増える夏。いざという時に、いのちを救うのは正しい救助の知識です。あせらず、周りの力も借りながら、安全な方法で救助すること。だ人も溺れてしまう—そう

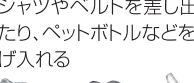
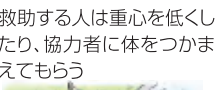
した2次事故の危険をはらむ水の事故では、救助者の安全確保が最優先。1人ではなく何人かで協力しあい、水に入らず陸上から救助するのがベストです。

溺れている人を助ける手順

2次事故を防ぐために



慌てて飛び込まない



春夏秋冬 赤十字病院物語 第5回 伊達赤十字病院(北海道)

地域医療の担い手として経営危機と向き合う

「市民にとって伊達赤十字病院は安心のランドマーク」。市長室の窓から見える病院を指しながら伊達市の菊谷秀吉市長はこう指摘します。

〃人の誘致。を掲げる北海道伊達市には、高齢者を中心に移り住む人が最近増えています。「高齢者の方が安心して移り住め、市民が心配なく暮らし続けていくには、医療拠点の確保が不可欠」と菊谷市長は赤十字病院への期待を語ります。



菊谷秀吉伊達市長

噴火災害から市民を守れ

有珠山の麓にある伊達市は、この100年余りの間に4度の噴火に襲われています。昭和15年設立の伊達赤十字病院はその度に、災害に立ち向かってきました。

前田喜晴院長は「昭和52年と平成12年の2度の噴火は、事前予知されたため、負傷者救護などはありませんでしたが、被災した他病院の患者さんの受け入れや、避難所での健康管理などにあたりました」と振り返ります。

平成12年の噴火の際には1万数千人が避難。全国の日赤支部から派遣された救護班の前線基地となったのが伊達赤十字病院でした。

東日本大震災でも計6班の救護班を被災地へ派遣したほか、津波に備えて設置された伊達市内の避難所には、前田院長自らも救護班要員として訪れました。「いつ災害に見舞われるかわからない地域ですから、災害救護に関する職員の意識も高い」と前田院長。

菊谷市長は「病気を抱えている高齢者の中には、避難所での症状悪化を恐れて、避難をなかなか決断できない方も。避難所と医療はセットでなければ」と赤十字が果たす役割を評価します。

医師不足から診療制限へ

「救急の患者は絶対に断らない。年末年始などは1日で200人を超える急患を受け入れたこともあります」と前田院長が胸を張るように、周辺市を含めた地域の救急医療拠点としての重責も担ってきました。

ところが、数年前からこうした役割を果たし得なくなりつつあります。発端は2004年度から始まった新医師

臨床研修制度。研修医を確保できなくなった大学病院が、地方病院へ派遣していた医師を引き揚げたことで、医師不足と経営危機に見舞われたのです。

「40人の医師が2～3年のうちに25人まで減少。産婦人科や小児科も一時閉めざるを得ませんでした」と前田院長は苦しい実態を吐露。現在、名古屋第一・第二赤十字病院からの医師派遣もあり、医師数は33人に増え、産婦人科と小児科は再開できましたが、常勤医が確保できない診療科も。救急患者の受け入れも制限せざるを得ない状況です。



前田喜晴伊達赤十字病院長

市の支援得て経営再建へ

こうした事態に伊達市は、これまでの支援に加え昨年度予算で2億円を病院に補助することを決定。菊谷市長はこの方針を明らかにした昨年12月の市議会全員協議会で「地域医療の崩壊を防ぐため」と強調しました。

病院側も本社、支部と協働し、経費節減など経営再建策を進めていて、平



●伊達市

北海道では温暖な気候で「北の湘南」とも呼ばれています。明治維新後、仙台藩支藩の巨理伊達家の領主・伊達邦成とその家臣・領民たちが集団移住しつづくれた町です。人口約3万7000人。宮城県巨理町とは姉妹都市で、被災した同町のイチゴ農家7世帯12人の移住を受け入れたことでも話題になりました。



伊達赤十字病院から見た伊達市の様子

成21、22年度の単年度収支の大幅な改善を実現しています。

「住民の方からは早く医師を見つけしてほしいと要望されています。医師確保とともに、総合内科の設置を検討するなど高齢化する住民の医療ニーズに応えた診療を充実させていきたい」。前田院長はこう決意を述べ、表情を引き締めました。

証言 3.11東日本大震災

責任を感じた3日間

孤立した避難所で救護支援活動

石巻赤十字看護専門学校3年

村上 優さん

あの日、津波で甚大な被害を受けた石巻赤十字看護専門学校。学生と教員は、近所の住民らとともに近くの小学校に避難しますが、その1階も水没。外部から救援が届かないまま、3日間孤立しました。

看護学校から小学校へ避難する途中、お年寄りや車いすの方が同じ方向へ向かっていくのを見て、学生同士で手分



看護師としての経験を積み、次に災害に直面した時には社会に還元したいと話す村上さん

常任理事会開催報告

平成23年7月15日、本社において平成23年度第4回の常任理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

付議事項

- 1 予算の補正について(秋田赤十字病院の放射線治療装置の更新にかかる医療施設特別会計歳入歳出予算の補正)
- 2 不動産の処分について(沖縄赤十字病院の新築移転

この経験を糧に

学校の近くの大学の一部を借りて再開。村上さんら3年生はいま石巻赤十字病院で臨床実習に取り組んでいます。

休の活動が始まりました。翌日になっても水は引かず、救援も来ません。被災して負傷した住民が次々に運ばれてくる中で、寝ることも、食べることもできない。飲み水がない中、寒さが体力を奪い、脱水症状で倒れる学生や教員が相次ぎました。

「自分にもっと知識があれば、もっと技術があれば」と、何もできない自分が悔しかった。だから、ここでやらなければならぬ。看護学校から小学校へ避難する途中、お年寄りや車いすの方が同じ方向へ向かっていくのを見て、学生同士で手分

「自分たちができることは何か」だけを考えるようにしました。誰かのために何かをできれば、それだけ自分は冷静でいられるように思えたからです。

に伴う不動産の処分

審議の結果、予算の補正及び不動産の処分については原案のとおり議決されました。また、鳥取赤十字病院の施設整備計画、広島赤十字・原爆病院の施設整備計画、山田赤十字病院の名称変更、東日本大震災国内義援金の受付及び送金状況、核問題に関する赤十字の取り組み、第43回フーレンス・ナイチンゲール記章受章者及び授与式、予算の補正にかかる6月分の社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

子どもたちに笑顔を!! 「KIDS CROSS project」(日赤キッズクロスプロジェクト)



山田幼稚園の園児と保護者の皆さんとバチリ!暑い夏を皆でのりきろうね

震災は子どもたちのところにも深い傷を与えています。「KIDS CROSS project」(日赤キッズクロスプロジェクト)は、そんな子どもたちに寄り添い、笑顔のある毎日を過ごしてもらうために健康と安全をサポートしていく取り組みです。

園児と保護者を対象にした健康安全教室や救急法の体験、保護者へのこころのケア指導、地域での移動映画館など、被災地域のニーズに応じたプログラムを提供していきます。

「ほら見て! じょうずにぬれたよ」

ぬり絵で熱中症予防
園児と保護者対象に健康安全教室開催

東北地方の梅雨が明けた7月11日、岩手県山田町の学校法人光明学園・山田幼稚園で、同プロジェクトの第1回目となる健康安全教室が開かれました。



楽しくぬり絵を描きながら、熱中症予防を勉強

園児44人と保護者20人が参加し、熱中症の予防法とこころのケア

について学習。園児たちは、「外に出るときは帽子と水筒を忘れずに」など注意点を確認しながらうわに描かれたぬり絵に思い思いの色をぬりました。

講師として熱中症対策を指導した日赤岩手県支部の看護師・阿部幸子参事は「子どもたちは暑くても無我夢中で遊んでしまうので、お母さん方も注意してほしい」と話します。

「子どもの話に耳を傾けて」 こころのケアでアドバイス

保護者向けの教室では「こころのケア」もテーマになりました。

山田幼稚園の佐々木美賀子園長は「子どもたちは震災で大きなショックを受けました。笑顔の裏に悲しみを抱えている子もいますが、親や教師であってもそこに気が付かない場合があります」と対応の難しさを指摘します。

阿部さんは母親の前に「震災のときの経験を何度も繰り返し話す子もいますが、面倒からずに耳を傾け、「怖かった」という思いを受け止めてあげてください。傾聴と受容は子どもたちが自分で立ち上がるきっかけになります」とアドバイスをしました。

震災後の火災で自宅を失った伊藤真由美さんは「一番下の4歳になる娘は、少しの音にもビクビクするようになりました。6歳になるお兄ちゃんは、地震の日のことを繰り返し私に訴えます。今日の教室に参加し、子どもの話にもっと向き合ってあげたいと感じました」と感想を語っています。

世界の赤十字社が 応援しています

被災者の生活再建へ 復興支援事業展開中



日本赤十字社は、生活再建を目指す東日本大震災の被災者一人ひとりを応援するため、生活家電セットの寄贈や医療、福祉、教育など幅広い分野の「復興支援事業」に取り組んでいます。その事業資金は、各国赤十字社から寄せられた約300億円の海外救援金。赤十字を通じて世界の人々が被災者を応援しています。

「日赤の存在意義かけ 全力で取り組み」

日本赤十字社 見澤泉・東日本大震災復興支援推進本部長

世界中の市民から「日本の被災者を救いたい」と寄せられた救援金が、各国赤十字社を通じて日赤へ届けられています。その金額はすでに300億円を超えました。このたくさんの善意を、被災地の皆さんへとつないでいく取り組みが、現在進めている「復興支援事業」です。これほどの海外救援金を活用して復興支援に取り組むのは日赤としても初の経験。大変な重責ですが、日赤の存在意義をかけ、全力を尽くしていきます。

支援策は3つの基本方針に沿って柱を立てました。第1は「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命に沿った活動です。石巻赤十字病院を中心に、石巻地域全体の医療復興をめざす取り組みを今後具体化していきますが、これらはまさにいのちと健康に直結した支援策。家電セット寄贈も、「人間の尊厳を守る」という視点から、被災下においても、少しでも通常の生活をとり戻していただけるよう支援していきます。

第2の方針は、日赤の有する知識・技術・人的資源を生かしていくというものです。避難所や仮設住宅の生活は健康の維持が難しい環境です。赤十字病院の医師や看護師、栄養士、安全奉仕団等のボランティアによる健康教室などを開催したり、介護職員を派遣した高齢被災者のサポートも進めています。

最後の柱は被災自治体と連携した支援策です。今回の震災では多くの自治体職員が犠牲になるなど、行政機能が低下しました。これを補完するため、被災自治体と十分調整の上、行政の手が回らなくなった部分への支援を講じていきたいとも考えています。

海外救援金による事業は3年をめどに展開する予定です。復興段階に応じて変化する被災地ニーズに柔軟に対応しながら、赤十字としての使命を果たし、スローガン「Together for humanity」を実践していきたいと決意しています。



生活再建への第一歩を応援 家電6点セットを9万世帯へ

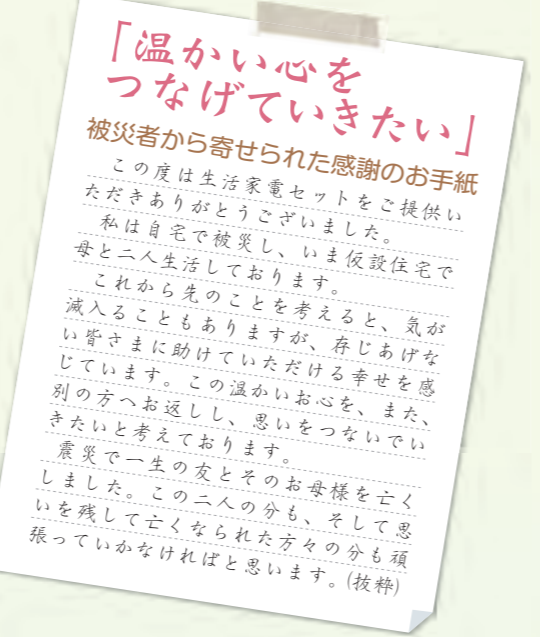
プレハブ住宅や自治体が用意した公営住宅などの、応急仮設住宅に入居した被災者への家電セット寄贈事業は、4月初旬にスタート。被害の大きかった東北3県や茨城、千葉などをはじめ、被災地から全国に避難している9万世帯が対象です。7月13日までに5万9706世帯への寄贈が完了しました。

多くの被災者が津波や火災で自宅と家財を失った今回の震災。仮設住宅での新たな生活に備品を買い揃えることは、大きな負担が予想されました。家電セットの寄贈は、こうした被災の実態を踏まえたものです。

生活再建への一歩を安心して踏み出せるよう、日常生活に最も必要と思われる6つの家電を選択。高齢の被災者など搬入が困難な世帯も見込まれたことから、仮設住宅へのお届けから設置まで日赤が責任を持って実施しています。



寄贈されるのは洗濯機、冷蔵庫、テレビ、炊飯器、電子レンジ、電気ポットの6点。省エネ仕様にも配慮しました



「温かい心をつなげていきたい」
被災者から寄せられた感謝のお手紙

この度は生活家電セットをご提供いただきありがとうございます。私は自宅で被災し、いま仮設住宅で母と二人生活しております。これから先のことを考えると、気が入ることもありますが、存じあげないままに助けていただけの幸せを感じています。この温かいお心を、差別の方へお返しし、思いをつないでいきたいと考えております。震災で一生の安とそのお母様を亡くしました。この二人の分も、そして思いを残して亡くなられた方々の分も頑張っていかなければと思います。(投稿)

被災地の福祉を応援 1000台の介護用ベッドを高齢者施設へ

被災3県の高齢者施設などに合計1000台の介護用ベッドを寄贈する事業も海外救援金による復興支援です。被災した施設の入居者は、被災を免れた他の施設へ転居しています。しかし、受け入れ先の施設では定員オーバーを余儀なくされ、ベッド不足などに悩んできました。介護ベッドの寄贈はこうした施設が対象。7月末までに83施設に476台が寄贈されています。

このほか、施設への人的支援として来年3月末まで介護士を派遣。福祉車両など500台を社会福祉施設などに寄贈する事業も進められています。

高まる介護ニーズに応えたい 社会福祉法人・千賀の浦福祉会 特別養護老人ホーム多賀城苑施設長 菅原美子さん

高齢者の面倒を見られてきたご家族が被災したり、仮設住宅での在宅介護が困難であることなどから、被災地では、施設介護のニーズが非常に高くなっています。

私たちの施設も、被災した施設の入居者を引き受けさせていただいており、定員オーバーが続いています。4人部屋に5人の方に入っていたり、介護用ベッドが足りないため、床に直接マットレスを敷くなどして対応してきました。衛生的にもベッドの方が好ましく、利用



介護ベッドは、介護する側の腰やひざの負担も軽減します

者には不便とストレスをかけてきたと感じています。

はじめにこの話があった時、「10台いただけると非常に助かる」と希望を申し上げましたが、その通りに10台を寄贈いただくことになり驚きました。本当に助かっています。救援金を寄せていただいた海外の方にも感謝を申し上げたいです。

最新式で多くの機能が付いたベッドを、介護に役立てていきたいと思っています。

学校の安心・安全の砦 保健室をサポート

震災を体験した子どもたちのこころのケアなど、保健室の役割は以前にも増して重要になっています。しかし、被災自治体だけの力では、津波で喪失した保健室の備品にまで手が回らないのが実情です。日赤の教育支援事業はこうした状況を踏まえ、保健室で使われる備品セット(約30万円相当)を被災地の学校に提供。9月の新学期をめどに宮城県内の小中学校と高等学校、計60校へ寄贈していく予定です。

「保健室を子どもたちの癒しの場に」 宮城県南三陸町 伊里前小学校教頭 菅野高子先生

地震後、小さな余震におびえる児童が増えました。学校から海が見えるため、波が荒れている日には「津波が来るかも」と教師に不安を訴える児童もいます。親と離れて親類宅で生活したり、避難所生活が長期化する結果、ストレスをためる児童も少なくありません。

一方、南三陸町は水道復旧の遅れから家庭での調理が困難な上、給食センターの流しで、一時は学校給食もパンと牛乳だけに。現在はバック入りのおかずが出るなど改善していますが、食事の偏りや運



「提供される備品は、児童の健康と安全を守るのに役立たい」と菅野教頭。支援対象の保健室にて。

動不足の影響か、子どもたちの体力が落ちてきているように感じています。

学校は5月10日に再開できましたが、津波に浸かった部分の清掃は困難で、衛生面の心配もいまだに残っています。そうした状況ですから、保健室の役割は大変に重要。児童の癒しの空間になるよう学校としても努力していきたいと思っています。

募金ができる自販機 利根コカ・コーラ社 とパートナーシップ



千葉 2011.6.30

千葉県支部と茨城県支部は6月30日、利根コカ・コーラボトリング株式会社(本社・千葉県野田市)とともに、日本赤十字社への活動支援・募金機能がついた自動販売機の完成発表会を、千葉県赤十字会館で行いました。

完成した自動販売機には、10円と100円の募金専用ボタンが設けられています。商品購入後のお釣りに希望金額を募金できるほか、商品を購入せずに募金だけすることも可能です。募金が完了すると、「募金ありがとうございました」の音声がかかります。

本体横に赤十字ロゴを大きくあしらうなど、コカ・コーラのブランドカラーと絶妙にマッチしたデザイン。電力不足に対応するための節電機能も搭載しています。

募金は売上金の一部の寄付と併せ、今年9月末までは東日本大震災義援金として、それ以後は日赤が行う事業の活動資金として活用されます。今後、利根コカ・コーラ社と協力しながら、同社の販売エリアである千葉・茨城・栃木県内に100台設置していく予定です。

この事業は、国際赤十字・赤新月社連盟とザ コカ・コーラカンパニー(本社・米ジョージア州アトランタ)が、2011年1月に締結したグローバル・パートナーシップの協働活動の一つとして、実現したものです。

両社は1917年以降、それぞれが持つノウハウを相互に提供。災害被災者の救援、防災意識の高揚・啓発を世界規模で展開してきました。



専用ボタンを押すだけでいつでも気軽に募金ができます

東日本大震災 被災地の赤十字奉仕団と 労をねぎらい交流会



秋田 2011.7.2

大仙市中仙赤十字奉仕団は7月2日、岩手県大船渡市を訪問し、避難所の公民館で大船渡赤十字奉仕団と交流会を開きました。交流会は当初、大仙市で予定されていましたが、3月の震災で中止に。中仙奉仕団の「自分たちにはできることはないか」との思いから、今回の交流会が実現したものです。

交流会では、一緒に非常時の炊き出しや秋田のきりたんぼ鍋を調理した後、中仙赤十字奉仕団が「ドンパン節」を、大船渡奉仕団と被災者の方々が「椿音頭」を披露。大船渡の参加者からは「久しぶりに笑顔になれた。とても元気をいただいた」などの感想が寄せられました。



底抜けに明るい「ドンパン節」は大船渡の方々に励まされました

東日本大震災 赤十字奉仕団が 避難者を招いて食事会



千葉 2011.6.22

君津市赤十字奉仕団は6月22日、東日本大震災により福島県などから君津市に避難した方々を招き、同市小糸公民館で食事会を開催。市内の公営住宅などで生活する18世帯34人が参加し、前日から奉仕団のメンバーが仕込んだ食事を楽しみました。

福島県の郷土料理「味噌かんづら」や君津市キャラクター「きみびよん」の太巻き寿司などを前に、参加者からは「懐かしい味に感激」「かわい過ぎて食べられません」の声も。この活動には同市消防本部が全面協力し、署員による豚汁の炊き出しや、同消防音楽隊によるミニコンサートも行われました。



サプライズで登場した「きみびよん」の太巻き寿司を頬張る女の子



紙芝居から絵本になった「日本の赤十字」

赤十字をもっと身近に 紙芝居を絵本にして図書館に配付



長野 2011.5

長野県赤十字広報奉仕団紙芝居班が作成し、これまでさまざまな機会に上演してきた紙芝居「日本の赤十字」。長野県支部は、この紙芝居を今年5月に絵本として出版しました。このほど県内の赤十字関連施設の待合室などに置いたほか、近隣の各支部や、長野県立図書館、各市立図書館にも贈りました。

絵本は、赤十字思想の原点となったイタリア・ソルフェリーノでのアンリー・デュナンの救護活動から始まり、日本の赤十字活動の先駆者である佐野常民と大給恒の活躍、日赤の歴史、災害時の赤十字の救援活動、最近の長野県内の動きなどを、大きな挿し絵とエピソードを交えながら丁寧に紹介。子どもたちが興味をもって読み進める中で、赤十字の理念や活動などについて、正しく理解を深めることができる内容になっています。

「絵本を読まれた皆さまが、歴史と共に歩んできた赤十字を身近に感じ、その活動に関心を寄せていただく機会になることを願っています」と、長野県支部では大きな期待を寄せています。



県内すべての警察署にAED設置を知らせるステッカーが掲示されました

一人でも多く救命を 県内すべての警察署にAED設置



静岡 2011.5.1

静岡県支部はこのほど、AED(自動体外式除細動器)56台を県内のすべての警察署を含む警察施設に、また24台を公民館など利用者が多い施設に設置しました。

心室細動は、心臓が細かなけいれんを起こし、血液を送り出せなくなっている状態。AEDは、瞬間的な電気ショックを与えることで、このけいれんを止める装置です。

静岡県支部は、一般の人がいつでも迅速にAEDを活用できるように、県内のAED設置場所を携帯電話やパソコンから簡単に検索できる「しずおかAEDマップ」を、支部のホームページ上で公開。市区町名や地域名から近くにあるAEDの場所が探し出せる仕組みです。

ところが、設置されるAEDは年々増えていますが、場所によっては夜間や休日を利用できないというケースが多いのも現状です。そこで支部では、いつでも人がいる警察署などに寄贈することにしました。

今回新たに設置されたAEDも「しずおかAEDマップ」に掲載しているので、もしもの時には誰でもすぐに救命のために使用することができます。



近衛社長は「皆さんの取り組みが全国に広がるよう今後の活動に期待します」と激励

「世界を知り、自分のできることを考えよう」 近衛社長がJRC中学生にエール



山形 2011.7.13

青少年赤十字（JRC）加盟校の大石田町立大石田中学校（石澤照夫校長、生徒216人）は7月13日、「JRCのつどい『ともに生きる』シンポジウム」を開催しました。

「JRC活動を通じた生き方学習」を「総合的な学習」の実践テーマに設定している同校。「身近なボランティア」（1年）、「国際理解と平和」（2年）、「未来を生きる～いのち」（3年）を各学年の課題とした活動を重ねています。シンポジウムでは、各学年ごとに取り組みの発表を行うとともに、生徒会が東日本大震災の義援金募金などの活動を報告。また、日本赤十字社の近衛忠輝社長がシンポジストとして参加し、「世界にたくさんの仲間を作って、世界を知り、自分ができることを考えてほしい」と生徒たちに呼びかけました。

近衛社長は、赤十字の国際支援活動などを紹介しながら、「草の根活動の積み重ねが、世界的に大きな活動につながる」と身近なボランティア実践の大切さを指摘。東日本大震災の被災者支援に多くの赤十字ボランティアが活躍していることにも触れ、「ボランティア精神の原点は、青少年赤十字の『気づき、考え、実行する』態度目標にある」とJRC活動の意義を強調しました。



日赤埼玉県支部のブースでは、10人のAKBファンが赤十字活動のPRに加わりました

日赤ブースも熱気に包むAKBパワー！ AKBファンのボランティアが赤十字PR



埼玉 2011.7.23

日本赤十字社は、AKB48の「2011年夏の全国ツアーコンサート」（7月22日～8月31日）に専用ブースを設け、赤十字活動のPRを展開中です。このPR活動には、AKB48のメンバーが案内役を務める「赤十字検定」（日赤ホームページ内）の全問正解者から抽選で選ばれた10人がボランティアとして協力。広報資料の配布や活動資金募金の呼びかけなどを行っています。

ツアーの皮切りとなった埼玉公演（西武ドーム、7月22日～24日）には、3日間で9万人が集結。日赤ブースにも計3300人余りのファンが立ち寄り、会場は夏の日差しに負けない熱気に包まれました。

23日にボランティアとして東京都から参加した相澤昭吾さん（22）は「大きな声でPRしたり、資料を配るのは慣れないので大変」としながらも「AKB48で日赤の堅いイメージがほぐれて親しみやすくなったと思います」。同じく都内から参加した小島冨夏さん（22）は「（オリジナルクリアファイルの図柄となっている）メンバーの救護服姿が印象的。日赤のイメージとも合っていて良いですね」とAKB効果。に期待を寄せていました。

※赤十字ブースでPR活動に参加いただくボランティア募集は終了しています。

Voice&プレゼント

引き続きほしい献血への思い 高野正寿（山梨県中央市）

少しでもお役に立てるようにと献血をがんばっています。献血ルームには子どもも一緒に連れて行くのですが、献血の大切さを少しでも理解してくれていれば嬉しいですね。献血が可能な年齢になったときに、自分から進んで協力できる子に育ってくれたらと願っています。

プレゼント応募方法

以下の項目を明記の上、郵送・FAX・メールにてご応募ください。

「AKB48オリジナルクリアファイル」（A4サイズ・非売品）3枚セットを5名様にプレゼントします。

- ①お名前（匿名ご希望の場合はその旨もご記入ください）
- ②郵便番号・ご住所
- ③電話番号
- ④年齢
- ⑤赤十字新聞8月号を手にされた場所（例/献血ルーム）
- ⑥赤十字新聞へのご意見・ご感想や、扱ってほしいテーマなど

●応募先

- ・郵送/〒105-8521
東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 企画広報室
赤十字新聞8月号プレゼント係
- ・FAX/03-3432-5507
- ・メール/koho@jrc.or.jp
(件名「赤十字新聞8月号プレゼント係」)

●応募締切/8月29日（月）必着

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



AKB48
オリジナルクリアファイル

赤十字看護大学・短期大学から 平成24年度入学のご案内

赤十字の看護大学・大学院・短期大学では、赤十字の人道理念に基づく教育・研究を通じて看護・介護の知識・理論・技術などを修め、将来は国の内外において、赤十字活動、保健・医療・福祉や看護の教育研究の分野で専門職として活躍することを目指す学生を募集しています。

また、各大学では、大規模災害により被災（避難）されている受験生の皆さんを経済的に支援することを目的として、大学（短期大学）に入学される学生を対象に、初年度の授業料にかかる給付制奨学金制度を平成24年度から開始いたします。

願書受付・試験日程などの詳細は、下記大学のWebサイトをご覧ください。各大学まで直接お問い合わせください。

| 学校名・ホームページ | 所在地 | 電話番号 |
|--|---------|--------------|
| 日本赤十字看護大学* / 大学院 www.redcross.ac.jp | 東京都渋谷区 | 03-3409-0875 |
| 日本赤十字北海道看護大学* / 大学院 www.rchokkaido-cn.ac.jp | 北海道北見市 | 0157-66-3311 |
| 日本赤十字秋田看護大学 / 大学院 www.rcakita.ac.jp | 秋田県秋田市 | 018-829-4000 |
| 日本赤十字豊田看護大学 / 大学院 www.rctoyota.ac.jp | 愛知県豊田市 | 0565-36-5111 |
| 日本赤十字広島看護大学* / 大学院 www.jrchcn.ac.jp | 広島県廿日市市 | 0829-20-2800 |
| 日本赤十字九州国際看護大学* / 大学院 www.jrckicn.ac.jp | 福岡県宗像市 | 0940-35-7001 |
| 日本赤十字秋田短期大学 www.rcakita-jc.ac.jp | 秋田県秋田市 | 018-829-3000 |

※印の大学では認定看護師の教育課程も開設しています。



人道危機続くリビア

「対話と交渉で暴力の連鎖を断ち切ろう」

赤十字国際委員会(ICRC)がシンポジウムで強調

「すべての紛争当事者と話し合いができる環境をつくる事。それ抜きに暴力の連鎖を断ち切ることはできません」。政府軍による市民への攻撃が続く一方で、NATO（北大西洋条約機構）が政府軍拠点への空爆を行うなど泥沼化しつつあるリビア内戦。このほど開催されたシンポジウム「北アフリカにおける人道危機とその対応」で、ICRC北・西アフリカ事業局長ボリス・ミシェル氏は、NATOによる限定的な軍事介入の成果に懐疑的な見方を示すとともに、対話による人道危機の解決を訴えました。

追い込まれた市民生活

民主化を掲げる市民と政権側との争いが連鎖的に発生した北アフリカのチュニジア、エジプト、リビア。6月24日に都内で開催されたシンポジウムは、こうした事態での人道支援のあるべき姿を考えていこうと企画されたものです。

リビアでいま起きている事態についてボリス氏は「医療施設の破壊で医療サービスの提供が困難になっているほか、経済制裁による食料や医薬品の不足も深刻です」と市民生活に支障が出ていることを指摘しました。

人権NGOのヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表を務める土井香苗氏は「政府軍はクラスター爆弾や地雷を使い、市民への無差別攻撃を行いました。収容所

に拘束された反政府勢力の人々が拷問を受けているとの報告もあります」と、人権が侵害され、人道が侵される危機的な状況になっていることを訴えました。

犠牲になった市民の数は1万数千人とも推計されていて、大量の難民がチュニジアなど隣国との国境へ殺到する事態も生まれています。

すべての当事者との信頼関係があってこそ

こうした中、ICRCはリビア赤新月社を通じて現場の医療活動を支援。また収容所を訪問し、被拘束者が家族と連絡を取る橋渡し役も務めています。監禁状況や待遇を監視することで、非人道的行為の発生を防ぐこともその狙いです。

「現場に入る事が大切。収容所訪問などはICRC以外の組織にはできない活動



「患者は敵方から運ばれたが、適切に治療されている」とノルウェー赤十字社の看護師は語る

です」とボリス氏は赤十字の果たす役割を強調。また、こうした人道支援活動にはすべての紛争当事者と対話し、信頼関係を築くことが不可欠だと指摘しました。

従来からICRCの代表部を置いていたチュニジアやエジプトと異なり、リビアでは同国の情勢不安が深刻化したことで急きょ活動拠点となる事務所を立ち上げなければなりません。ICRCがリビア入りしたのは2月下旬。3月半ばには首都トリポリに事務所を立ち上げています。この点についてボリス氏は「目の前の人道危機への対処と同時進行で、ICRCの現地活動の受け入れをめぐって政

府や関係当局、NATOなどと協議しなければならず、まさに日々挑戦でした」と当時を振り返りました。

シンポジウムでは、人権侵害や民間人被害を最小限に抑えるための軍事介入を容認する意見も出されました。こうした主張に対してボリス氏は、リビアで行われているNATOの限定的な軍事介入の効果に疑問符を投げかけるとともに、軍事力を伴う「人道的介入、そのものへの懸念を表明。「どの紛争当事者からも独立し、中立でなければ人道支援はなし得ない。これは過去の経験に照らした教訓です」と訴えかけました。

チリ大地震 漁民の生計再建支援 ボート・エンジンの配付がまもなく完了 1隻のボートが支える20人の生活

「全長7.7メートルほどの小さなボートですが、この1隻が20人近い人々の生活を支えているのです」。こう語るのは、チリ大地震の復興支援へ現地派遣され、このほど帰国した秋元陽子駐在員。被災した漁民に、ボートとエンジンを配る支援事業に取り組んできました。

「地域全体の復興にはまだ時間がかかりますが、生活手段であるボートを得たことで、被災者は復興への確かな一歩を踏み出しています」

34の漁村でサポート

200万人の被災者を数えた昨年2月のチリ大地震では、漁村を襲った津波に

より漁業用ボートが流失。多くの漁民が生活の糧を失いました。

こうした事態に日本赤十字社はチリ赤十字社と協議の上、漁民への生計支援策として34漁村、150人の漁民に対し、個々の事情に合わせたボートやエンジンを配付する事業を、昨年7月から約1年にわたり行ってきました。

「1隻のボートに3~4人の漁民が乗り込み、沖合10キロほどの沿岸部で細々と漁を営んでいます。漁民1人が数人の家族を養っているため、ボート1隻の配付はおよそ20人の生計支援につながる計算です」と秋元さんは事業の果たす役割を強調します。「支援対象は小さな漁村ばかりで、他からの援助もなかなか届かない地域。それだけにボート・エンジンの配付は本当に感謝されました」

日本の被災者へチリ被災者からも寄付

今年3月11日の東日本大震災は、チリの人々にも大きな衝撃を持って受け止められました。「陽子の家族は大丈夫か」「日赤の人たちは無事なのか」。秋元さんのもとには、日本の人々を気づかう電話などが相次いだといいます。

チリ赤十字社は、東日本大震災の救援金のために募金活動を展開。日赤が支援した漁村の人たちもそれに応えて、ボートでの漁獲量1日分に相当する募金を寄せてくれました。チリ大地震直後の救援期に日赤が医療支援を行ったパラル病院（マウレ州）では、窓口に募金箱が設置され、職員や患者からの募金が集まりま

ました。秋元さんはこう振り返ります。「チリの人々からは『自分たちも復興に励んでいるので、日本の被災者の皆さんも負けないで』というメッセージを預かってきました。自らも被災されている皆さんですから、被災者への心からの思いやりを感じました」

南スーダン赤十字社が発足 喜びの独立記念式典で初仕事

7月9日に独立を果たした南スーダンで同日、南スーダン赤十字社が発足しました。首都ジュバに本社を置き、全国に10支部を設置。今後、災害時の緊急支援や応急手当の普及、保健衛生・給水衛生サービスの提供などに取り組みます。9日の独立記念式典での救護活動が同赤十字社の初仕事になりました。(写真)



スーダンでは内戦(1983~2005年)のために約200万人が殺害され、400万人が家を失うなど、多くの犠牲者が出ました。また、2010年には500万人が食糧支援を必要としました。

日本赤十字社は内戦に加えて、相次ぐ干ばつや洪水など厳しい環境にあるスーダンの人々を支援するため、毎年約3000万円の資金を援助。紛争下での人道支援を行う赤十字国際委員会(ICRC)からの要請にも応えて、日赤看護師をダルフール

やジュバに派遣してきており、今年8月にも1人を派遣する予定です。

南スーダン赤十字社の発足に向けては、スーダン赤新月社の職員やボランティアが準備に参加。今後、両赤十字社・赤新月社は連携しながら活動を行います。なお、同赤十字社は11月にジュネーブで開催される赤十字国際会議で、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)への加盟社として正式承認される予定です。



漁場の形や波の高さにより使うエンジンが異なるため、ていねいな現地調査を基に実情にあったエンジンを配付しました